



ケアマネ通信おびひろ

平成 23 年 7 月 22 日発行
 帯広市介護支援専門員連絡協議会
 発行責任：濱 功之

第32号

【目次】

- 1、帯広市介護支援専門員連絡協議会新会長あいさつ（ケアセンター白樺・笠松信幸さん）
- 2、平成 23 年度帯広市介護支援専門員連絡協議会定期総会（帯広厚生訪問看護ステーション・後藤和子さん）
- 3、公開講座レポート「認知症治療の最新情報と地域連携」（居宅介護支援事業所新得やすらぎ荘・斉藤久恵さん）
- 4、研修レポート①（居宅介護支援事業所シグナル帯広・及川由希子さん、居宅介護支援事業所ふぁ～すと・芳野光一さん）
- 5、研修レポート②（居宅介護支援事業所くるくる・島崎幸子さん、有料老人ホームハイツしらかば・沙手宏美さん）
- 6、私のお気に入り（地域包括支援センター帯広市社会福祉協議会・藤原恭子さん）
- 7、癒しのオフタイム（あかりケアプランサービス・岡本大輔さん）
- 8、ケアマネの輪（地域包括支援センター愛仁園・東哲慎さん）



帯広ケアマネ連協・新会長に笠松氏



笠松信幸新会長挨拶

～小関前会長は名誉会長に就任～

帯広市介護支援専門員連絡協議会は平成 23 年度定期総会にて笠松信幸氏（ケアセンター白樺事務長）を新会長に選出しました。前会長の小関純一氏（小関内科医院院長）は名誉会長に就任しました。笠松氏はこれまで同協議会副会長を歴任。現在、北海道介護支援専門員協会副会長も務めております。

会長プロフィール（Facebook 調べ）

氏名	笠松信幸（かさまつのぶゆき）
出身	北海道深川市
資格	主任介護支援専門員・社会福祉士
趣味	ビールを飲みながら話す
血液型	O型

「あきらめない介護支援を心に」

小関純一会長のあとを受け継ぐことになりました。老健ケアセンター白樺の笠松信幸です。どうぞよろしくをお願いします。

震災支援で岩手県大船渡市に行き、ケアマネジャーの社会的役割を実感しました。

大津波から命からがら逃げ延びたものの、不便な避難所環境で何人もの方々が要介護状態になっていました。震災の半月後でまだ町中瓦礫の山、市役所は認定審査どころではありません。地元の保健師さんに相談して、厚生労働省通知を根拠に「みなし介護認定」をしてもらい、デイサービス利用や施設入所につなげることができました。

私たちは日常の支援業務の中で制度の壁にぶつかることがあります。法令通知を遵守しつつもそこで何か工夫できないか、あきらめずに考えることが大切だと、被災地の経験から改めて感じています。

介護保険法改正に続き、今後、介護報酬改定の議論が本格化します。地域包括ケア推進など私たちをとりまく情勢は大きく変化しそうですが、日本介護支援専門員協会や北海道協会と連携しながら、ケアマネジャーが生き生きと働ける環境をつくるために、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

平成23年度帯広市介護支援専門員連絡協議会定期総会

帯広市介護支援専門員連絡協議会

副会長 後藤 和子



平成23年度定期総会が去る5月28日とかちプラザ・レンボホールで開催され、会員87名・委任状57名の合計144名（総会時の会員数206名）の参加がありました。活動報告と決算を承認、新年度事業計画・予算と規約の一部改正が決定しました。

小関会長の開会挨拶では、東日本大震災で被災にあわれた方々へのお悔やみとお見舞いが述べられ、「介護保険制度成立から10年が経過し、寝耳に水の、利用者自己負担やケアマネジャー不要論が噴出した。日本協会、道協会と支部が連携し署名活動を行い、国に働きかけ、今回は見送られた。組織の連携を深め、多様化に対応して行く事が重要。その一方でケアマネジメントの質が問われている。帯広連協は、研修会と学習会が資質向上に役立っていると自負している。更なる発展のために、前に進んで行かなければならない。」と締めくくられました。

来賓として、十勝総合振興局社会福祉課・堂下司課長、帯広市保健福祉部・細野正弘部長、介護保険課・鈴木昭文課長が出席されました。

堂下課長は「被災地での活躍から、ケアマネジャーの役割の重要性を実感した。来年4月の制度改正では、地域包括ケアシステムが導入されるが、住み良い社会の実現、高齢者の尊厳保持に努めて欲しい。」

細野部長は「第5期保健福祉計画・介護保険事業計画の策定をすすめていくが、地域の方々が安心して尊厳ある生活を送れるようご尽力頂きたい。帯広市も関係作りに努力したい。」と期待を込めたご挨拶を頂きました。

規約の一部改正は、設立以来会長を担って下さった小関会長の勇退に当たって、今後も引き続き、ご教示、ご指導頂けるよう『名誉会長』の新設が承認されました。役員選挙では、笠松新会長をはじめ全役員が信任されました。



↑議長はグループホームふきのとう・石山氏



平成23年度新役員

会 長	笠松 信幸 (ケアセンター白樺)
副 会 長	後藤 和子 (厚生訪看居宅) 渡辺 こづ江 (包括愛仁園)
幹 事	
研 修 部	小林 知永 (居宅柳町) 白木 良和 (ふるさとデイサービス) 芳野 光一 (居宅ふぁ～すと) 吉田 元 (GHほほえみ)
総 務 部	濱 功之 (あんさんふる川北) 藤原 恭子 (包括帯広社協) 佐藤 篤史 (居宅ピリブ)
監 査	荒 浩美 (居宅開西) 早丸 由美子 (居宅向日葵)
名誉会長	小関 純一 (小関内科医院)

※某電力会社の株主総会を見て思いました。株主総会と主旨は異なりますが、会員の声が届かない、反映されない組織であれば、団体の意味はなくなってしまいますね。帯広市ケアマネ連協は今後も会員一人ひとりの声を大切にしていきます！

●●公開講座レポート●●

認知症治療の最新情報と地域連携～地域包括ケアを視野に入れて～



「認知症治療の最新情報と地域連携～地域包括ケアを視野に入れて～」と題し、国立長寿医療センター遠藤英俊氏により講演をいただきました。講師の遠藤先生は国の認知症に対する施策の最前線にいる方で、新薬等の旬の情報や最新の画像診断のお話し等を目の前で聴くことができ本当に勉強になったと同時に、社会に認められるようなケアマネになるよう叱咤激励された思いがしました。

印象に残った講演内容を紹介します。「ケアマネとしてトータルなケアの考え方をしていく必要がある。1つは認知症ケア、2つ目はターミナルケア終末期について、3つめは障がい者ケアについて。そのためには医療とケアマネの情報を結びつける連携が普段から大切である。ケアマネも病気の理解をし、医療用語にもっと精通して欲しい。」「現在のケアマネ研修内容、講師について見直しが必要とされ、来年度国として指針を出していく。今後ケアマネ国家資格へと進めるためにケアマネの教育の強化をどうするか考えなければならない。ケアマネは症状（医療）に応じたケアプランを立てる必要があり、常に研修会に参加し新しい情報を得、関係書を読むなどの勉強が必要である。ケアマネ研修に最初の頃あったアセスメントの研修がなくなってきている。もっとスキルアップの為、センター方式に取り組んだり事例検討を一例でも行ったり、がんばってやって欲しい。」「認知症の治療は今年大きく変わろうとしている。アリセプトに続く新薬が次々と製品化されている。今年3月にはメモリー、レミニール、6月には貼るパッチ、平成25年秋にはアリセプトのジェネリックが出る。画像診断も進んでいる。CT・MRI・SPECTによる診断により認知症の原因疾患や早期発見、早期治療も可能になってきている。BPSD発症前に見つけ出し、例えば潜在的アルツハイマーでも5年も10年前にも診断できて、発症予防や発症を遅らせることも可能となる。」「地域包括ケアについて、医療・介護・福祉サービスが日常生活圏内で概ね30分以内で提供されるシステムの構築が検討されている。連携を図るため名刺に顔写真を入れたりして医師等に顔を覚えてもらったり、積極的に飲み会に出たり、利用者のハピネスを目標にネットワークづくりを大事にして欲しい。」時間が足りないくらいの講演でした。また、先生にお目にかかりたいと思います

居宅介護支援事業所新得やすらぎ荘

斉藤 久恵



↑ 公開講座の受付の様様



↑ 公開講座には非会員 94 名、会員 111 名の合計 205 名が参加。



↑ 遠藤先生の書籍販売も大好評！



↑ 交流会も大盛り上がりでした！！

●●研修レポート①●●

【北海道介護支援専門員協会・全道ケアマネ研究交流会】

平成23年5月21日、札幌市北海道経済センタービルで開催されました「平成23年度北海道介護支援専門員協会全道ケアマネ研究交流会」に参加させて頂きました。「地域包括ケアの実現に向けて」のテーマで厚生労働省老健局振興課課長、川又竹男氏より講演を聴かせて頂きました。

来年度の介護保険改正にあたり、重点とされている地域包括ケアとは何か、介護支援専門員はどのような福祉ビジョンを持って利用者を支援していくべきか等のお話がありました。

あわせて今回の東日本大震災による被災者の支援状況など説明があり、医療分野では被災地の方の受け入れてもらえるが、介護での介入の難しさがあるとのことでした。よその人の世話にはなりたくない家族でみるという意識があり介護職の専門性が発揮、伝わらないということの現状がありヘルパーの派遣が難しいとのことでした。ケアマネジャー等の事務所等自体も破壊されており早く回復が必要とのことでした。

制度改正のポイントの地域包括ケアシステムについては、これからの高齢化社会を支えていくためには介護保険だけでは全てを支えることができないため医療、民間、住民の力を借りボランティアやサービスの購入等色々なサービスを組み合わせることが必要であること、また特別養護老人ホーム等への施設入所ではなく住み慣れた地域で暮らすことを可能とするため新たに創設される「サービス付き高齢者住宅」に24時間対応の「定期巡回・随時対応サービス（地域の中で施設のようなサービスの考え方）」等の介護サービスを組み合わせる仕組みの普及を図る。その他には来年4月施行を目指して介護職員による痰の吸引等の実施についての話もありました。その他にも色々なお話を聞くことができこのような機会に参加させて頂きましてありがとうございました。

閉会の挨拶で北海道介護支援専門員協会副会長、笠松さんの挨拶の中で「ケアマネジャーが要だと改めて感じました」とお話がありまして、身に染みる言葉だな…と感じました。

居宅介護支援事業所シグナル帯広

及川 由希子



平成23年5月21日（土）北海道介護支援専門員協会主催の全道ケアマネ研究交流会が札幌市の北海道経済センターにて開催され、今回帯広市介護支援専門員連絡協議会研修部として参加させて頂きました。会場には150名程の参加があり、厚生労働省老健局振興課課長川又竹男氏が講師で「地域包括ケアに向けて」というテーマで講演頂きました。

今回の講演では、平成24年度の介護保険法改正にあたり、重点とされている地域包括ケアとは何か、そして介護支援専門員はどのような福祉ビジョンを持って利用者を支援していくかを記憶にも新しい今年の3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震における被災地の現状と介護等のサポート拠点の整備の話を変えながらの説明でした。

来年度改正の重点とされている、地域包括ケアシステムについては5つの視点による取り組みとして、①医療との連携強化、②介護サービスの充実強化、③予防の推進、④見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など、⑤高齢期になっても住み続ける事のできる高齢者住まいの整備、があげられていました。

5つの視点の内容は①については、24時間対応の在宅医療、訪問看護やリハビリの充実強化、介護職員によるたん吸引などの医療行為の実施。②については、特養などの介護拠点の緊急整備、24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの創設等在宅サービスの強化。③できるだけ要介護状態にならないための予防の取り組みや自立支援型の介護の推進。④について、一人暮らし、高齢夫婦世帯の増加、認知症の増加を踏まえ、様々な生活支援サービスを推進。⑤について、一定の基準を満たした有料老人ホームと高専賃を、サービス付き高齢者住宅として高齢者住まい法に位置付ける（国交省と連携して行う）との事です。

今回の研修を通して、再び介護支援員不要論が出ないようにするために、改めて介護支援専門員という専門職に何が求められているのかを考える良い機会となりました。自分自身で現時点での課題を明確にし、これからも、様々な職種の方々と連携を図りながら、利用者の方から必要とされる介護支援専門員を目指し研鑽を積んでいきたいと思えます。今回、このような研修の機会を与えて頂きありがとうございました。

居宅介護支援事業所ふぁ～すと

芳野 光一

●●研修レポート②●●

「帯ケアマネ連協・研修会「ニーズに沿ったケアプランの展開」」

講師であられる、保坂先生の講義は非常に現実的で私達が日々利用者様との接触の中で考えさせられるものばかりでした。特に認知症の利用者様、家族に対応する技術として、どのように悩みを受け止め心配ごとを減らしていくかを具体的に学びました。さらに、その人の存在自体を尊重し、言葉がけや非言語的な表現を活用する事に改めて大切さを実感させていただきました。

また、小刻みに演習を入れた講義内容を進行し、その都度、その目的と到達点が明確にされました。私達ケアマネジャーが利用者様一人ひとりをサポートする立場として、きちんと今の状況を把握し適切に支援を組み立てる為には、まずしっかりと話を伺うことが必要であることも強調されておりました。いつも忙しさを理由にご本人の本音を聞くに至らず、返って適切なマネジメントに時間がかかってしまう不効率を反省させられました。この演習を通して、より利用者様にとって有意義なケアマネジメントが出来るよう意識をして実務を行なっていきたいと思えます。

居宅介護支援事業所ぐるくる
島崎 幸子



有料老人ホームのケアマネとして働き約3年。対“人”と関わる中で、日々面接技法、アプローチの難しさを痛感している所です。入居者さん、御家族との面接時、意向を伺う中での「特にないです」との返答…。自分の面接技術のなさにガクリ肩を落とすことが何度もありました。そんな中での今回の研修会。面接技術の傾聴力・承認力・質問力等「なるほど〜」と勉強させられることが沢山ありました。全て自分のものにするには時間がかかるとは思いますが、少しずつ、でも着実に吸収していきたいと思っています。

この面接技術は、対“入居者さん、御家族”との関係ではもちろんですが、対“同僚、上司”、対“友人、家族”あるいは対“関わっている全ての人”との関係にあてはまるものではないでしょうか。いつもそれらを考えて行動しては疲れるかもしれませんが、もしそれが自然にできたなら、もっと人間関係が円滑に、そして互いに心地よく生活できるのではないだろうかと思えます。人間関係が上手くいかない時、「何故！ どうして！！」と人を責めたくなる気持ちが湧いてきますが、→もしかしたら相手も同じ気持ちかもしれない→自分が変われば相手も変わる（ちょっとした気遣いで人の気持ちが変わる）→まさにストローク（自他の存在や価値を認める為の言動や働きかけ）が大切だと再確認しました。

入居者さん、御家族の思いを引き出すのもケアマネの技術次第。ケアマネはただケアプランを作る為だけの人ではなく、「共にケアを歩ませて頂く」「共にケアプランを作成する」という意識をしっかりと持ち、関わっていききたいと思えます。

有料老人ホームハイツしらかば
沙手 宏美

～私のお気に入り～



地域包括支援センター帯広市社会福祉協議会
藤原 恭子



★紹介するお店★

「BLUES HARP (ブルースハーブ)」

帯広市西1条南10丁目アポロビル地下/0155-27-4220

“はましよう” と言えば、ぱっと思い浮かぶのは…そう浜田省吾ですね。私、うん十年も前に浜省のコンサートに行ったことがあります！一体その時、だれと行ったのか、どんな曲を聴いたのか、思い出そうと思っても思い出すことができません…(- “)

そんなエセはましょーファンなんて許さない！というくらいに(?) 浜省ファンの長谷川ユカママが経営するお店が、「BLUES HARP」です。2009年3月に開店しました。お店の名前の「BLUES HARP」は浜省が愛用しているハーモニカの種類です♪

お店に入ると浜省とママが迎えてくれます。大画面で浜省のステージのDVDが…
お店には彼の歌があふれています。



ユカママは浜省のファン歴33年。デビュー曲の「路地裏の少年」を聞いてファンになったそうです。ユカママの好きな曲は「ロマンスブルー」「ラストショー」♥これだって限定して選ぶのは難しい中から選んでくれました。どの曲もすてきですよ。

ユカママはラジオのDJもやっていて、76.1MHz、FMウイングで毎週金曜日夜7時～8時で“午後7時のワイルドボーイ”という番組で10人の浜省ファンが月1回程度の担当で、浜省関連の曲をかけ、楽しいニュースをお伝えしているそうです。

この通信が発行になる時は、すでに終わっていますが、7月16日(土)・17日(日)に札幌きたえーるで浜省のコンサートに行くとのことで、すごく楽しみにしていました。初恋の人に会いに行くみたい…っていうくらいのワクワク感のようです。すてきですね～。ちなみに5月に広島で行われた広島のコンサートも一足先に行ってきたそうです。すごいですね～。



お店でお勧めのドリンクは「Cafe de' Shogo(コーヒー酎)」。このお店ならではのコーヒー豆につけた焼酎です。ほんのりコーヒーの香りが気持ちを落ち着かせてくれます。ぜひ飲んでみてください。



↑省吾とユカママ

後、省吾の好きなスコッチ、GLENLIVET(ガレンリベット)もおすすめのとのこと。浜省ファンもそうでない人も、ぜひお店で雰囲気味わってください。私もお店に顔を出すたびに浜省ってかっこいいって思います。

お店の奥にはコンサートを開けるスペースがあって、浜省ゆかりの方がミニコンサートを開くこともあるようです。お店に行って“ケアマネ通信みたよ”で「Cafe de' Shogo」1杯をサービスしてくれるそうですよ。ぜひお店で「Cafe de' Shogo」を飲みながら、すてきな時間を過ごしてみてください。インタビュー中に聴いたJ-boyもすごくすてきでした。

癒しのオフタイム

あかりケアプランサービス
岡本 大輔



みなさん、こんにちは。あかりデイサービスで生活相談員、そしてあかりケアプランサービスで介護支援専門員を兼務している岡本大輔です。今回、偶然執筆のお誘いがあり驚きと感激です。ありがとうございます。

ここ一年、僕の趣味と言えば「読書」です。福祉に携わる人間として、もっともつと実力をつけたいと考えたとき、一番簡単にできる勉強として「読書」を始めました。僕は福祉関係に限らず、ビジネスや自己啓発などの分野の書籍を読みます。最近、特に面白かったのはこの5冊です。福祉に携わると、福祉業界のことばかりに目がいきがちですので、この中でもマクドナルドの創業者レイ・クロックの「成功はゴミ箱の中に」をオススメします。ユニクロの柳井正さんやソフトバンクの孫正義が絶賛する書籍です。ドキドキ・ワクワクの成功ストーリーはみなさまの心を感激させることと

思います。そして、実はその「趣味」が高じて、今年度からあかりデイサービスでは朝の勉強会、「十勝・帯広朝活読書会」を開催するができました。現在、会員6名で毎月2回(火曜日)テーマに沿って選書してプレゼンをしています。福祉業界だけが良くなっても、他の業界が悪くなると経済発展ができず、福祉の充実にはつながりません。僕たちはこれから自分たちの業界以外にも交流し、助け合っていきたいと思っています。



みなさん、こんにちは。地域包括支援センター愛仁園の東と申します。

認知症専門担当職員として日々、右往左往、四苦八苦、七転八倒、そして、やみくもにウロウロしつつも包括愛仁園の仲間に助けられながらなんとか業務をこなしています。これからも、関わる方々への感謝を忘れずに日々ケアマネとしてレベルアップしていきたいと思っています。



焚火式燻製器 ムラセ1号

(ここで焚火をします)

さて、いい仕事をするためにはオンとオフの切り替えがとても大事なかなと感じていますが最近のオフの時の相棒を紹介します。

これは、拾ったステン性の給水管で作った燻製器です。義弟の村瀬君に手伝ってもらい仕上げたのでムラセ1号と名付けました。(ちなみにオカモチ式燻製器ムラセ2号もあります) 特徴は熱源を焚火で確保するところです。こいつで作る燻製は最高です。これまで、ベーコン、燻玉、スモークサーモン、生ハムなんかを作りました。



ベーコン・燻玉



スモークサーモン

そして妻と子供に振る舞い「パパすごいね、カッコイイネ。」と言われるときが至福のひと時なのです。それを言われたくて作っているようなものです。「カッコイイ」と言われると元気がでるのです。これからも家族に「カッコイイ」と言ってもらえるよう情熱的に仕事をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

※ベーコン、メチャクチャうまそうですねえ〜(^ー、^*)

【介護支援専門員連絡協議会からのお願い】

- ★連絡先や勤務先が変わったり、苗字が変更になった場合、HPにある「入退会・変更届出書」の書式を活用して速やかに届け出てください。
- ★メールアドレスの登録について、各事業所や会員へのメール配信については、今後それぞれの希望を確認した上での対応とさせていただきますので、メールアドレスの登録についてのご協力をお願い致します。
- ★新規入会は随時受け付けています。入会申込書は、ホームページから入手できますので詳細については事務局にお問い合わせ下さい。
(事務局 帯広市社会福祉協議会 藤原)

＝ 編集後記 ＝

皆様、こんにちは。小栗旬「激似」の編集長「南方仁」です。昨年度に引き続き編集長をさせていただくことになりました。

昨年度はあちらこちらで「ネットワーク」とか「連携」という言葉を聞く機会がとても多かったように思います。特に医療と介護の連携においてケアマネの果たす役割は重要であり、連協も様々な会議に参加して多職種との連携の強化に努めてまいりました。

私個人もネットワークという言葉に弱く、先日「mixi」や「Facebook」といったソーシャルネットワーキングサービスに登録しました。まだ一度もつぶやいたことのない「Twitter」にも登録しています。役に立つかわかりませんが登録して気が付いたことがあります。「友達少ないなあ…」「ただの寂しがり屋か…」。皆さん、こんな私とネット上でも仲良くしてもらえませんか？

今回、藤原さんの～私のお気に入り～の記事で“はましよう”と言えば…という件がありましたが、私が真っ先に思い浮かんだのは、高校時代に全裸で踊り続けた「ハマ SHOW」です。コーヒー耐ばりにほろ苦い思い出です。

編集長えっち